

## 令和3年度第1回天草市総合教育会議 会議録

1 期 日 令和3年4月22日(木)午後3時30分開会

2 場 所 天草市役所本庁2階 庁議室

3 出席した委員等

市 長	馬 場 昭 治	教 育 長	石 井 二三男
委 員	行 合 八恵子	委 員	木 下 えり子
委 員	吉 森 啓 司	委 員	岩 崎 あゆみ

4 欠席した委員等

委 員 黒 鶴 進 治

5 出席した職員

教 育 部 長	長 元 忠	教育総務課長	本 多 俊 隆
学校教育課長	赤 星 潤 一	生涯学習課長	岡 田 恵
学校給食課長	堀 口 広 正	学校教育課審議員	酒 井 成 寿
学校教育課課長補佐	口 脇 大 作	学校教育課教務1係長	盛 田 達 矢
教育総務課課長補佐	谷 口 哲 也		

6 議題

- (1) 天草市教育大綱について
- (2) いじめ防止基本方針及び不登校の状況（SNSの状況）について
- (3) スクールバス運行事業及びICTの活用について

7 会議の概要

(1) 開会

開会にあたり、事務局より、会議出席者の紹介及び傍聴者の報告を行った。

(2) 市長あいさつ

馬場市長より、会議開催にあたり、市長就任からこれまでの所感及び昨年来のコロナウイルス感染症に係る教育委員会対応等に係る謝辞が述べられた。

(3) 協議・調整事項（発言要旨）

① 天草市教育大綱について

(教育総務課から、資料に基づき天草市教育大綱の内容及び経過を説明)

馬 場 市 長： 天草市教育大綱について協議したい。事務局説明のとおり、現大綱は昨年度に改めて策定された教育大綱であり、私も現大綱を尊重した取組を継続したいとの考えを持っている。意見を伺いたい。

木 下 委 員： 現大綱策定に至るまでには、教育委員会でも何度となく議論してきており、過不足ないものとする。

吉森委員： 現大綱の考えは賛同している。市全体での大綱共有と計画的な実行が重要。

馬場市長： 現大綱の実現に向けた施策展開のためには、情報共有は不可欠と考える。

この大綱をもとに、市全体としても教育行政の展開を図りたいと考える。変更を要すると判断した場合には、教委とも十分協議したいので、協力願いたい。

## ② いじめ防止基本方針及び不登校の状況（SNSの状況）について

（学校教育課から、資料に基づきアンケート結果やいじめ防止基本方針等について説明）

馬場市長： 説明のとおり、いじめ防止基本方針については各段階を踏んだ協議がされているが、今日の会議で天草市としての最終結論に至りたい。

木下委員： 心のアンケートの内容を踏まえた感想を述べる。

学校が楽しい、授業が分かるの調査結果向上のためには、授業力向上が必要だ。まとめに記載のある自尊感情に係る課題克服に向けた取組を求めたい。

いじめ問題で、相談していない小学生の数値が懸念される。安心できる相談体制が必要であり、教員にも子供と向き合う時間確保が重要である。

SNSについては、まとめに記載のとおり長時間利用等の課題対応のためには、学校だけでは限界があり、家庭との連携が不可欠だ。

岩崎委員： 心のアンケートの結果は重要だ。いずれの課題も、学校と家庭の連携を図る必要がある。市報等を利用した情報提供を求めたい。ゲーム機の長時間利用等は、家庭だけでの対応だけでは困難であり、学校との連携が必要。デジタル機器のフィルタリング等家庭ルール徹底策は、家庭訪問の機会等でも保護者に伝えてほしい。いずれにしても、子どもが発するシグナルに気付くためには、時代変化に対応しながら、先生、保護者、子供の向き合う時間確保が大切だ。

石井教育長： いじめの状況、学校でのいじめ解消の状況を確認したい。

学校教育課長補佐： 年間154件を把握した。これまでは、概ね年間200件程度で推移している。学校でのいじめ解消の取組により、基本的には100%解消して次年度を迎える体制をとっている。

馬場市長： 令和2年度は学校休業期間があった中でいじめの件数が減少している。要因は。

学校教育課長補佐： 特別な対策というよりも、コロナ禍だからこそ、課題のある児童等への寄り添いを指導してきた。その点では十分な対応ができた。

馬場市長： 特殊事情は理解できた。さらに課題が減少することを期待したい。

吉森委員： これまでもいじめ事案等の報告を受けてきた。学校と家庭が連携して丁寧に対応していると感じている。継続願いたい。

石井教育長： 教育委員会は、各学校長に対して、早く情報を共有して一緒に取組もうと伝えてきた。学校だけでなく、専門職や子育て支援課、地域、警察を含めて連携した対応がないと解決は難しい場合がある。関係者間の信頼関係構築にも努めている。

馬場市長： 市長就任以降、悪いことほど早く報告するよう言っている。

行合委員： 子供のつまずきを早期に発見し解消していくことが大切。自尊感情を高める取組も

必要である。いじめについては、これまでの取組の効果が出ている。いじめの考え方も変わってきた。いじめることの処罰も含めて子供には正確に伝えてほしい。

馬場市長：　ここで結論が出る課題ではないが、教育委員との共通理解が図れたと感じた。今後も情報共有し取組みたい。

いじめ防止基本方針改定については、適切なものと判断できる。本案のとおり決定する。

### ③ スクールバス運行事業及びICTの活用について

(学校教育課から、資料によりスクールバスの運行状況等について説明)

馬場市長：　教委では新和の状況を視察したと聞いたが、いかがか。

木下委員：　子供の体力面・健全育成という考えでは自転車通学が理想ではあるが、防犯面等現状を踏まえると、バス混乗の対応も検討すべきと考える。

行合委員：　スクールバスでは、新1年生を運転手や上級生が見守っている。互いの支え合いがスクールバスの利点でもある。今後の運行見直しの考えはあるか。

学校教育課長：　見直しは適宜バスの小型化などに取組む。ルート変更を伴う場合には契約変更を要する。

岩崎委員：　視察したが、坂道や危険箇所もある。安全確保を考えると混乗も必要だと思うが、将来的な保護者からの要望は増加すると思う。

吉森委員：　新和だけでなく各地区意見はある。防犯面を考えると、子供が減少すれば要望は増える。各地区の意見を踏まえて丁寧な対応が理想。見直す段階での地域意見聴取が必要。

馬場市長：　スクールバスの現状は、小学校4キロ、中学校6キロを条件とする。安全確保のためには見直しが必要になる。

木下委員：　できれば、自分の足で通学してほしい。結果的に体力面や心身の成長に差が生じてくる。

馬場市長：　学生の頃に6キロの自転車通学をしていた。子供の減少で、夜間の防犯面での心配はある。それぞれ貴重な意見をいただいた。ルート変更等には予算上の問題も出てくる。体力面の意見もある。いろいろな角度から検討していきたい。本件は、再度議題として、引き続き協議していきたい。

(学校教育課から、資料によりICT環境整備事業等について説明)

木下委員：　ICT環境整備にあわせた教員のICT活用能力向上のため、研修を充実すべき。健康面からは、長時間にわたる使用制限に配慮願う。

吉森委員：　活用するためには、先生の能力向上を要する。苦手な教師に活用は難しいので補助者の配置を要する。かえって教員の負担になることも懸念される。

石井教育長：　学校での研修と同時に、先生同士で指導できるリーダー教員の養成に取り組んだ。全体的な底上げには、とにかく使ってみることが必要。オンライン授業もできる体制づくりが必要。

木下委員： 学校の中で、得意・不得意の差が出るが、分からないなら先生も声をあげて、質問していかないと能力向上は図れない。各人の意識を高める必要がある。

教育部長： これまでの取組を全体的に説明した。3月にPCの納品やLAN工事、4月に各学級編制が終わり、今はPCの個人設定を登録中。まずは、平時の活用を図りたい。山江小視察でも、授業構成ができない課題等はICT導入が解決することではない。先生が相互に協力し合うと活用も図られる。ハード整備が完了した段階であり、これからソフト対応となる。

石井教育長： 機器にトラブルが生じると、現場は混乱が生じるので対応を考えたい。

行合委員： ICTは子供にとって必要だが、ICTを使っていくという意識醸成を要する。

馬場市長： 教育現場のことではないが、パソコンスキルは子どもに追いつけないと実感している。不得手な先生がいるのであれば、逆に子どもに先生になってもらって良い。子供のやる気にもつながる。日本は、諸外国より遅れているICTスキルに長けた人材育成を要する状況。ICTの使い方を教えるという概念から、ICTを利用して子供に何の能力を身に付けさせるかという概念への転換を要する。校長会でも、ICTにとらわれすぎることなく、人間力を高めることができる天草の教育に期待すると述べた。リアルに実体験できるのが天草の良い点だ。

木下委員： リトルティーチャー育成の観点は参考になる。

行合委員： 市長の意見は適格だ。地域間のハード整備も願いたい。

馬場市長： 令和3年度には8割の地域で光通信が可能と見込む。令和4年度にも継続して優先対応を考えたい。

#### (4) 閉会

市長の宣告により閉会する。